

# 1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

## (1) 理念・目的等

### 1) 大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

#### 【現状の説明】

本学は、全国でも有数の製造業の集積地である中部地区の産業発展のために技術者の養成が必須であるとの中部財界の要請を受け、昭和14年に大同製鋼株式会社（現大同特殊鋼株式会社）が財団法人大同工業教育財団を設置したのがその始まりとなっている。現在は学校法人大同学園がその中核となり、大同工業大学および大同工業大学大同高校を運営している。

創設者の志は学園の歴史とともに受け継がれ、特に大学の理念である「創造と調和」という言葉に昇華され、教育理念・教育目標によって具体化している。

また、平成14年4月情報学部を新しく設置するに際し、各学部・大学院とも職業専門家を育成することを目的にして教育理念と教育目標を見直し、以下のように具体化している。

[理念]	[創造と調和]
教育理念	大同工業大学は 人類の幸福に貢献することを究極の目的として きたるべき時代に対応できる英知と 問題解決能力を兼ね備えた 創造力に富む人材の育成を行う
教育目標	豊かな教養を身に付ける 基礎となる学力を身に付ける 創造的な考え方を修得する 活力のある自己を確立する

#### 【点検・評価】

平成8年には「自己点検評価」を基に、理事会・大学・高校の三者による大同学園中期基本計画策定委員会を発足させ、同年12月「大同学園中期基本計画」の中に「大学中期計画」を策定し、実行してきた。「大学中期計画」の根幹は、それまで掲げていた大学の理念・教育目標に基づいて「学生の視点に立脚した大学の再構築」であり、教育のあり方、教育・研究環境の整備、FD活動等に至る広範囲な大学改革になった。

「大学中期計画」の根幹である「学生の視点に立った教育」を一層推進するため、平成12年1月に「大同工業大学授業憲章2001」を教授会で採択し、全ての授業を原則公開することをうたった。学長を委員長とした大学教育体制実行委員会が、本学の理念・教育目標を具体化するために、一般教養・全学科の教育内容の総見直しを図り、各学科の教育目標と人材養成目標を定め、単位の実質化と学習到達度を考慮した標準教育プログラムを策定し、それに基づく新カリキュラムが、平成12年4月からスタートした。

学生が理解しやすい教育、学生と教員との双方向授業を目指した「大同工業大学授業憲章2001」を具体化するために平成12年4月には授業開発センターを設置し、参観を可能とした公開の研究授業・授業研究会を組織して継続実施し、発展させてきている。また平成14年度から

は、それまで毎学期末に実施してきた「学生による授業評価アンケート」に加え、学生が標準教育プログラムに掲げた学習到達目標の到達度を自己点検する「学習到達度アンケート」も導入した。このように教育理念、教育目標を達成するために、教員の授業改善と教育目標達成に向け努めている。

上述したように平成14年に教育理念と教育目標を見直し制定したが、この新たな大学の理念・教育理念・教育目標は建学の精神に立ち帰って見直したものであり、学生・職員にとっては極めて身近な理念・目標と言える。

さらに、平成15年4月には本学に入学してくる全ての学生に教育目標、人材養成目標を達成させるための支援組織として学習支援センターを設置し、正規課外の授業を実施して高校での未履修科目や基礎学力の理解力を高める学習支援を行っている。

以上のように本学は大学・学部等の理念・目的・教育目標および人材養成等の目標をを明確に掲げ、それを達成するための施策を適切に実行してきていると判断している。

### 【長所と問題点】

平成11年度に実施した自己点検評価と大学基準協会の「相互評価」において、今後の課題や相互評価結果に付記された助言・勧告が指摘されていた。上記の現状の説明と点検評価で述べたように、大学・学部等の理念・目的・教育目標は、学部学科改組により見直され、また理念と教育目標をより具体化した人材養成等の目的が、各学科の標準プログラムの骨子として位置づけられ、教育活動に生かされているので適切であると判断される。

一方、産業構造の急激な変化や社会ニーズの多様性が顕著になってきているので、各学科の教育目標や人材養成目標を定期的に見直す必要があり、今後の課題である。

### 【将来の改善改革に向けた方策】

本学では先述のとおり、平成8年に策定した大同学園中期基本計画の中の大学中期計画に基づく大学改革は、目前に到来する平成20年の18才人口120万人時代を向かえて、工業大学として社会の要請に十分応えられる教育・研究活動、それに伴う施設の環境整備の充実目指し、大学の魅力化・生き残りの方策であるという現状認識で実施された。

新キャンパスに、体育館、講義棟、実験棟、研究・管理棟やゴビーホールなどが、平成12年度に完成し、有意義な学生生活を送っている。

また、前回の自己点検評価で指摘されていた課題および大学基準協会「相互評価」の総合評価結果の内容を踏まえて、以下のことが実施に移されている。

- ① 学長を委員長とした大学教育体制実行委員会が、学部・学科改組に取り組み、また、教育改革実行委員会が、学科改組に合わせて検討された教育方針を盛り込み、各学科の教育目標・人材目標を到達目標に据えた標準教育プログラムに基づく教育が実施に移された。今後は、各学科の標準教育プログラムの点検評価を踏まえて、改善に努めたい。
- ② ハード面（教育環境）の整備とともに重要なことはソフト面（教育内容）の充実であるが、数学・物理・化学未履修の学生への対応のため、学習支援センターが設置され、基礎学力の向上に努め、少しずつ成果が出てきている。
- ③ 教育重視型大学を目指して、「大同工業大学授業憲章2001」を宣言し、授業開発センターが中心になり、教育目標や学習到達度の検証が進められている。
- ④ さらに、メンタルヘルス面での指導を必要とする学生、アルバイトによる疲れから授業

に出席できず単位不足で退学に結びついていく学生、友人のできない学生等々、入学してくる学生について、大学として卒業まで如何に対応していくかが求められる時代となっており、今後益々この傾向は強まっていくと予測している。いかに職員が学生と日常接し、対話を重ねることにより問題解決を図ることができるかを課題としている。

- ⑤ いかに学生に理解され、満足される教育を行うことができるか、時代に即した社会の要請に応えられる有為な人材を輩出できるか、基礎・応用研究の場としての教育研究活動の活性化を図ることができるかが大学のあるべき姿であると同時に、将来の改善・改革に向けた道筋であると考えている。

また、将来計画委員会が、大学の魅力化・生き残りの方策のために、平成18年を目標に学部・学科改組に取り組み、新学科構想および定員等にかかわる中間報告がまとめられている。実施に向けた対応が、急務であると考えている。

また、大学院情報学研究科情報学専攻の設置や、工学研究科に新専攻の設置計画が議論され、申請に向かって準備が進められている。